

国語学	1年 前期	講義2単位	担当教員名	大平 雅弘
	卒必 幼必 保必			
授業のテーマ及び到達目標 ① テーマ : われわれの身近にある国語について、組織だった知識を得る。 ② 目標 ・国語の構造を四つの部門(音韻・語彙・文法・文字)に分けて考える。 ・国語の基本的事項を再認識することで国語学のアウトラインを修得し、日本語の持つ歴史的重みを理解する。				
授業の概要 人間はことばを遣う生き物であり、ことばはそれを遣う国民の文化でもある。ことば無しには、意思の疎通も、個人や集団の思考も創造も成立しがたい。従って、言語能力の習得・向上には、基礎となる言語に対する基本的な知識が不可欠であり、長い時間と知的能力とが求められる。情報化社会といわれる時代において、言葉をいかに有効適切に遣うか、今日ほど真剣に考えられていることはない。ことばそのものや国語に対する関心を喚起し、豊かな言語感覚を磨き、生涯にわたって日本語に対して自ら学ぶ姿勢を涵養していく。				

授業計画

コマ(回)	項目	内 容
1	国語学とは	イントロダクション (目的・方法・評価)
2	総 論	言葉 国語と日本語 母語 国語の構造
3	音 声 ・ 音 韻 ①	音声の最小単位(音節と単音) 五十音図(日本語の音節一覧表)
4	音 声 ・ 音 韻 ②	音声記号 日本語の音節 アクセント イントネーション
5	文 字 ・ 表 記 ①	文字とその使い方 漢字のはなし(漢字の構成 呉音・漢音・唐音)
6	文 字 ・ 表 記 ②	漢字から仮名へ ローマ字の伝来と綴り方の種類
7	文 字 ・ 表 記 ③	補助符号 仮名遣いの種類・送り仮名
8	意 味 ・ 語 彙 ①	意味・単語・語義(同音異義語 接尾語 擬態・擬音語)
9	意 味 ・ 語 彙 ②	語彙の諸相・語彙の量 語形 敬語法(丁寧語・尊敬語・謙譲語)
10	意 味 ・ 語 彙 ③	語彙の量 敬語法(丁寧語・尊敬語・謙譲語)
11	意 味 ・ 語 彙 ④	語種 外来語 位相
12	文 法 ・ 文 章 ①	文法と文法論 文法研究の単位 構文論
13	文 法 ・ 文 章 ②	文章論 文章の展開と構造
14	文 法 ・ 文 章 ③	文体と文体論 文体の種類と文体史
15	方 言 ・ 言 語 生 活	方言と方言研究 方言区画 日本語の系統 言語生活・言語生活史
定期試験	15コマ終了後に筆記試験を実施する。	
テキスト	「国語学」 宇野義方編 学術図書出版社	
参考図書	「国語学要論」 福島邦道著 笠間書院	
教員の 評価方法	学習への意欲・関心・態度(20%)、課題の提出状況と内容(20%)、定期試験(60%)等により総合的に評価する。	
準備学習等 履修上の留意点	予習課題の提示・発表 授業後にテーマに即したレポートの提出	